



事例26

凌風小中学校（後期課程）の実践例から…… PDCAの流れで進める週末課題の定型化

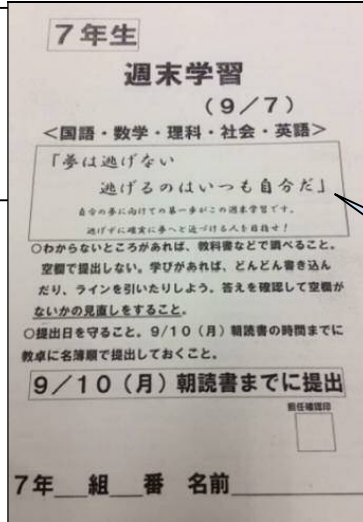
子どもの学力向上を図る上で、家庭での学習習慣の**定着**が欠かせないことは言うまでもありません。凌風小中学校では、学習意欲を高め、基礎学力の向上を図るため、『週末課題』の取組を通して、**学校全体**で家庭での学習習慣づくりをすすめています。

取組の概要

- 対象学年 6～9年生（6年生は平成30年度から）
- 実施期間 定期考査前をのぞいて、原則、**毎週末**
- 分量の目安 1回当たり、5教科×（A4 1～2枚程度）

7年生1回分の例（計10頁）：
表紙、国語2頁、数学1頁、
理科2頁、社会1頁、英語3頁

1回分の分量



メッセージで
学習意欲喚起

実施の流れ

- 週末の終学活**で、その週の学習内容に応じた、基礎・基本の補充プリントを配布
- 【子どものPDCA】** 子どもは家庭で
 - ①何を学習するのか確認
 - ②まず「やってみる」！
 - ③わからない問題に印をつけて、教科書やノートを調べながら、「解ききる」！
 - ④自ら点検して、間違っ了解答を「直す」
- 週明け**に、教員による点検
→空欄があるなど課題達成が不十分な子どもは、休み時間や放課後に個別に指導

学校の工夫

- ・基礎・基本の内容（例：東京書籍の問題データベース等）を、**定型化**
→問題作成の省力化も図る
- ・必要な場合は、**繰り返し**同じ問題を
→左の①～④の流れは、毎回、『週末課題』の表紙に記載して、習慣化
- ・子どもの心に火をつける**メッセージ**をあわせて載せることで、**意欲喚起**
- ・教員も、週明け**すぐに点検**を（1時間目のうちに授業のない教員が学年分を一気に）
→個々の子どもの状況を即時に把握して授業改善につなげる

成果と課題

●成果

- ・週末だけでなく、平日における「家庭学習の習慣化」につながっている
＜全国学力調査 生徒質問紙回答から抽出＞
「学校の授業以外に、平日1時間以上勉強する」と答えた自校生徒の割合
平成27年度6年生 23.7%→平成30年度9年生 44.6%

3年間で**20.9**ポイント上昇！

- ・生徒の「わからない課題を自分で解決しようとする姿勢の育成」につながっている
- ・**【生徒のPDCA】**『週末課題』を復習教材として、自分の学習状況を確認
- ・**【教員のPDCA】**生徒一人一人の授業理解度を日常的にチェックし授業改善の方向を探る方策の一つに

●課題

- ・細やかな点検と、生徒への指導を継続できるような学年体制づくり

事例27

唐橋小学校の実践例から……

「ふくろうノート（自学自習ノート）」を活用した家庭学習の充実と継続

唐橋小学校では、市販の自学自習ノートを活用して、子どもたちが**目的意識を持って主体的に学ぶ**家庭学習の充実を図っています。学校全体で「**自学自習**」のしくみを定型的化することで、子どもたちは学年が上がっても同じ**流れで自主学習を進める**ことができ、教員は年度当初から円滑に取組を継続していくことができます。

取組の概要

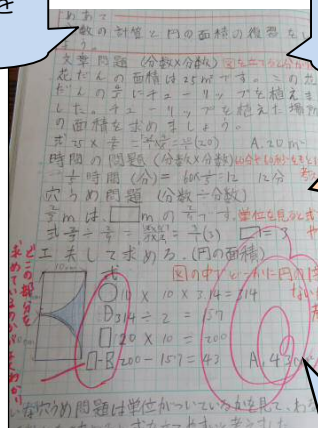
- 対象学年** 1～2年生：読書を中心に
(好きな絵本を保護者に読んで聞いてもらうなど)
3年生～：市販の『自学自習ノート』を用いて
- 分量の目安** 1回当たり、ノート1～2頁
- 内容の例** 習った漢字を元に同音異義語を探す
算数の文章題の類題を身近な出来事から作って解く
テストで間違えた問題を解き直す

日付とともに開始・終了時間を記入(工夫1)

「めあて」「振り返り」を書くように

子どもが自らの気づきを**赤字**で「**図を立てるとわかりやすい**」「**単位を見ると式を立てやすい**」

教員のマルやコメントは欄外に小さめに記入(学習内容を見やすいように残す)



☆中心にある願いは「**家庭で子どもたちが楽しんで学べるように**」

学校の工夫

1 ノートの欄外に、必ず開始・終了時間を記入させる

- ⇒【**子どもの学習計画の明確化**】児童が自分で時間や予定の管理をし、生活リズムの中に学習を位置づけるように
- ⇒毎週配布する「学習予定表」を簡略化し、児童が自分で放課後の予定を書ける欄を設ける(教員の学習予定表作成の省力化にもつながる)

2 ノートは2冊用意して、1週間ごとに交互に使う

- ⇒児童は、数日かけて取り組んで学習の質を高められる
- ⇒【**教員の時間の確保**】教員は、1週間かけて学級分の見取りができる(児童個々の状況把握がより丁寧にできるようになる)

3 子どもへの評価と励ましの「見える化」

- ノートへの赤ペン指導(励まし) →よいノートを教室掲示
- がんばったノートにはシールを貼る学級も
- ⇒児童の努力の積み重ねを促す目標に
- ⇒児童の「見てもらっている」安心感に



「**学習予定表**」は教科等のみを記載

代わりに、児童が自分の放課後の予定を書く欄を設ける(工夫1)



ノートは「A」「B」2冊を交互に(工夫2)

がんばったノートにはシール！子どもへの励ましの「見える化」(工夫3)

成果と課題

●成果

- ・「家庭で、教科書・ノートを開く」習慣が児童に定着
- 児童の、学校の授業とともに家庭学習を大切にする姿勢を育成(授業と同様に「めあて」「振り返り」)
- 全国学力・学習状況調査等の学力数値上昇傾向

●課題

- ・自学自習の意義やノートの使い方、家庭での関わりについて、児童や保護者に定着させること【課題解決に向けて】保護者に自学自習の必要性を説明する「おたより」を配布

特に国語Bで、**指数が約10上昇!**

『自学自習のすすめ』を活用してください!

『自学自習のすすめ』は、毎年4月に、小学校・中学校・小中学校・総合支援学校の新生児に配布しています。子どもたちや保護者に呼びかける形式で、小1から中3まで学年に応じて、自学自習に取り組むためのヒント等をまとめています。

家庭学習の重要性を保護者に理解いただくためのツールとして、活用してください。

- 内容**・学校での学習内容の特徴
- ・学年ごとの「自学自習のつぼ! 3か条」
 - ・ノートづくりのコツ
 - ・学年ごとの「学びや育ちの特徴」 など



事例 28

美豆小学校の実践例から……

カリマネで高める教育活動の質～保護者と共有する「家庭学習の大切さ」～

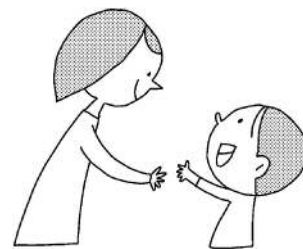
美豆小学校では、子どもたちにつけたい力を明確にし、カリキュラム・マネジメントを教育活動の質を高める取組として捉えるとともに、「家庭学習」を児童と保護者をつなぐ取組として校内研究に位置づけて、授業との連動を図り、保護者や地域に繰返し意義や方法・内容を情報発信して「家庭学習の大切さ」を共有しています。

取組の概要

内容 カリキュラム・マネジメントの中で「家庭学習」をポイントの1つに
家庭や地域に繰返し情報発信して、共有



☆中心にある願いは、
「家庭での支援を十分受けることが難しい児童に届く支援を！(自主学習のヒント・手立て・励まし)」
「家庭学習をひとつの手段として、保護者には、子どもの心に届く声かけや豊かな会話をしてやっていただきたい」



学年ごとに具体的内容の「家庭学習ガイド」を作成(工夫1)

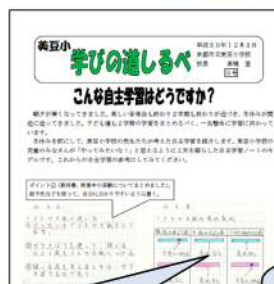
学校の工夫

1 まずは、あらゆる方法で保護者の目に留まるように！

- ・学年ごとの「家庭学習ガイド」
- …家庭学習のねらいや具体的な取り組み方について
- ・学校ホームページや学校だより「学びの道しるべ」
- …具体的な家庭学習の方法を繰返し取り上げる

2 児童のがんばりが、仲間や保護者に伝わり評価されることで、自尊感情が高まるように！

工夫したり、ねらいに合ったり、続けて頑張っている児童の自主学習ノートを、全校児童や保護者・地域の方々の目にとまるように、職員室の前の「学びの掲示板」に掲示。



「学びの道しるべ」で繰返し具体的に意義・方法を伝える(工夫1)

頑張っている自主学習ノートを、児童・保護者・地域が一番見えやすい場所に(工夫2「学びの掲示板」)

成果と課題

●成果

- ・「学びの掲示板」などにより児童の家庭学習意欲が上昇し、保護者の家庭学習への関心・子への関わり方が変容
- ・保護者と児童の関わりが深まることで、児童の自尊感情が少しずつ高まり、将来展望が持てるように

〈全国学力調査 児童質問紙回答から抽出〉
「将来の夢や目標を持っている」と答えた自校6年生の全国比指数
平成29年度 82.1 → 平成30年度 102.3

指数が約20ポイント上昇！

●課題

- ・授業や小テスト、ノート検定などの校内の実践と家庭学習とを連動させるしくみの充実

平成30年度全国学力・学習状況調査における京都市立小・中学校の結果概要について

(結果概要は、京都市教育委員会のHPにも掲載しています)

◆平均正答率一覧 順位…市の()内は、左：都道府県47自治体中相当の順位、右：指定都市20自治体中の順位

	小学校調査					中学校調査				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
本市	74	57	66	54	64	77	62	67	48	66
順位	(5位/1位)	(6位/4位)	(4位/1位)	(6位/2位)	(3位/1位)	(6位/6位)	(8位/9位)	(10位/8位)	(10位/11位)	(21位/12位)
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
京都府全体 (本市含む)	73	56	65	53	62	77	62	67	48	66
京都府乙訓局 (向日市・長岡京市・大山崎町)	73	57	66	54	61	78	64	69	52	68
指定都市 トップ	74 (京都・さいたま)	59 (新潟)	66 (京都・新潟・川崎・横浜)	55 (川崎)	64 (京都)	79 (仙台・さいたま)	65 (仙台・さいたま)	70 (仙台・さいたま)	52 (仙台)	71 (仙台)
都道府県 トップ	77 (秋田)	61 (秋田・石川)	68 (石川)	59 (石川)	66 (秋田・石川)	80 (秋田)	66 (秋田)	72 (福井)	53 (福井)	71 (石川・福井)

- ・小学校は、全教科で全国平均を上回り、全教科合計で指定都市1位という良好な結果でした。
- ・中学校は、国語・数学では全国平均を上回る良好な結果であり、理科は全国平均と同水準でした。

◆それぞれの学校でクロス集計もできます

・「京都市小中一貫学習支援プログラム分析システム」を使うと、ジョイプロ・確プロのほか、全国学力・学習状況調査の結果についても、児童生徒質問紙と正答率のクロス集計ができ、学力と指導方法、学習習慣との関連がみえてきます。「学校全体」で、自校の子どもたちの学力状況や生活習慣等を把握・分析してください。

⇒ [光京都イントラ](#)>●3 各課のページ>[学校指導課](#)>●[ジョイントプログラム](#)・[学習確認プログラム](#)

◆学習習慣の大切さ◆

～中学生の確プロ「予習シート」による勉強時間の状況と確認テストの結果のクロス集計～

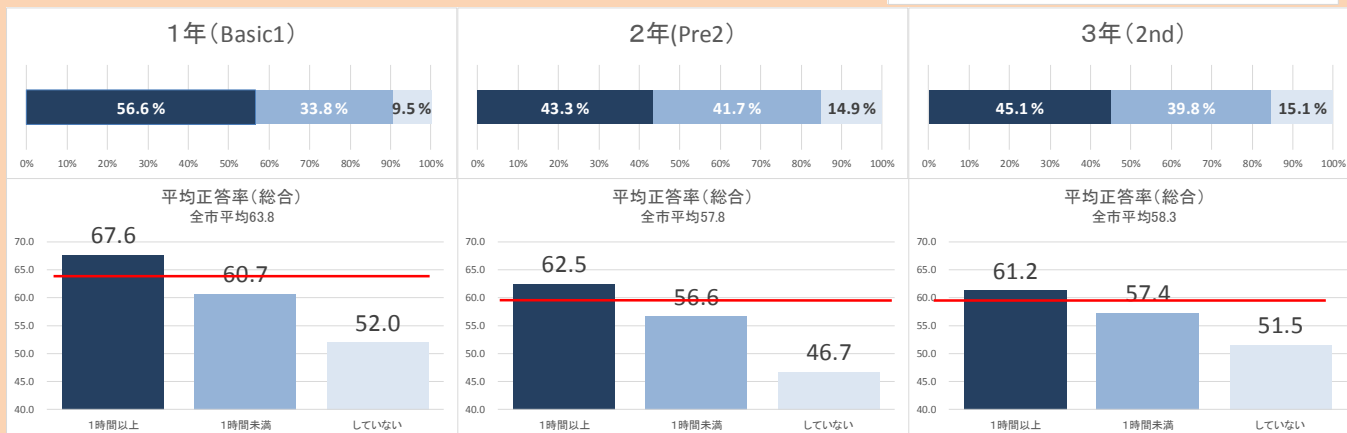
30年度の確プロ(中学1年Basic stage1, 中学2年Pre stage2, 中学3年2nd stage/10月実施)の結果でも、『平均正答率』と『予習シートを勉強した時間』との間に高い相関性が見られます。

3学年とも、「1時間以上予習シートで勉強している生徒」の平均正答率は全市平均よりも高く、「1時間未満の生徒」の平均正答率は全市平均より低い結果となっています。

中学校に入ってからではなく、小学校のうちから学習する習慣を定着させることが、子どもたちの学力に大きな影響を与えていることがうかがえます。

予習シートによる勉強時間の状況と確認テストの結果

■ 1時間以上 ■ 1時間未満 ■ していない



★学びのコンパスに掲載している写真等は、光京都イントラの学校指導課のページに記載しています★

[光京都イントラ](#)>●3 各課のページ>[学校指導課](#)>●[子どもたちの学力向上をめざして・学びのコンパス](#)

～取材にご協力いただいた学校の先生方、ありがとうございました！～

ユニークな学力向上実践をされている学校は、学校指導課までお知らせください！



学びのコンパス 平成30年12月・第10号

《発行元》京都市教育委員会指導部学校指導課

小中一貫教育・学校運営企画担当(TEL222-3801)